
どこがおかしな

ゆう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

どこかおかしな

【Nコード】

N8180Y

【作者名】

ゆう

【あらすじ】

弟を亡くした少年の話です

(前書き)

少し暗い感じの話です

弟が事故で死んだ。たった一人の弟だったけれども、僕は特別何かを感じるということではなかった。なぜなら、彼に対して関心がなかったから、というべきなのだろうか。それは好きとか嫌いとかいって問題ではなく、あくまで他人だからだ。そう、兄弟だとは言っても、所詮は他人であり、血がつながっているかどうかの違いしかないのだ。他人が死んだところで、僕には関係のない話だ。

僕はずっと、僕以外の誰かが、僕にとって必要であるとは感じなかった。今も感じない。もちろん、自分ひとりでは生きていけないことぐらいわかる。生きるすべを知らないただの子供でしかない僕にとつて、そうすることは困難だからだ。だから、そういう意味ではない。精神的な安定に関する話というべきか。

昔は、それが別段おかしいことであるとは思ってもいなかった。そのことが普通ではないと感じるようになったのは、祖父が他界したときだった。

普段から誰とも会話をしようとしないう僕を、両親はただ無口なだけだと思っていたらしい。しかし、数年前に祖父が逝き、葬式に出たときだ。その報せを聞いたときもそうだったが、葬式の最中でもあまりに関心そうに振る舞っていた僕は、母に言われた。

「あんた、おじいちゃんが死んで悲しくないの？ あんなに可愛がってもらったのになんとも思わないの？」

冷たい子供だと思われただろうが、別に何も感じないのだから仕方なかった。それに、何も可愛がって欲しくてそうしてもらったわけではない。

しかしその時から、僕は自分のどこか何かがおかしいのではないかと思うようになっていた。僕が子供だから何もわからないのかと思いきや、弟は泣いていたからそうでもないらしかった。

それから僕は、親に不安をかけまいと、なるべく普通だとみられるよう、努力するようになった。彼女のあの時の態度から、普通ではないことを悟られるのがまずいと感じたからだ。それから、小学校に入学する時期になり、周りの皆が他人と仲良くしてるのを知ってからには頑張つて友達を作るようにし、学校が終われば遊びに行くこともあるらしいということを知ってから、誰かに誘われればそうするようにもした。

弟が死んだのは、交通事故だった。僕の友達が弟を誘ったから、一緒に外に遊びに行ったのだ。帰り道、注意をせずに道路に飛び出した弟は死んだ。そう、それだけのことだ。必要などではないし、特に思い入れもないから、何とも思わない。やっぱ、僕は変わりはしない。父は悲しそうにするし、母は泣いているの中で、形だけでもと、一応悲しそうな態度は取って見せる。

人はいずれ死んでしまう。それは変えようのない事実で、誰でも知っている。知っているにも関わらずそれを初めて知ったかのように。

この場にいる皆が悲しそうに顔を曇らせている中で、何も感じていのは僕だけなのだろうか。彼らも一応悲しそうにしているだけなのか？ そうだ、そもそも本心などわからない。しかし、仮に僕だけだとしたら、やはり僕はどこかおかしいのだろうか。どこかに欠陥があると思えない。式の最中にこんなこと考えるなんて、どこか壊れてる。考えてるのは自分のことばかりだ。彼も、僕みたいなやつを兄に持つて、可哀想なやつだな。少しだけ、罪の意識だけがそこにはあった。

「大丈夫か？」と、父から声をかけられた。それに関しては大丈夫だけど、僕は大丈夫じゃないよ。

「うん、大丈夫だよ……」

帰り際、多くはない出席者のうちの何人かに、声をかけられる。終始悲しそうにしていたためか、弟を失って悲しんでいるものと思

い、僕を憐れんでのことだったのだろうか。いや、そうであつてほしいと思つた。おかしいのは僕だけでいいから。

しばらくして泣けてきたのは、おかしい自分に辟易したのと、弟に対する罪悪感からだつた。

（後書き）

最後まで読んで下さった方、ありがとうございます

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8180y/>

どこかおかしな

2011年11月24日09時46分発行